

慢性化していないか

「努力します」は、口ばかりの会社

連続災害に、「つぼみ」警鐘

言葉や文字だけの対策なら、子供にもできる。保安協議会などにおいても、事故やケガはすべて本人の不注意やルール違反であるかのごとく、すべての責任を労働者に転嫁しようとしている。

しかし、現場の実態は決してそうではない。今度の、三連の掘進切羽における災害状況を見ても、発破前後の天井側壁、切羽面などの入念な点検が実行されていたら未然に防げた事故ではないだろうか。

だが、「出来高払い」や「請負給制度」によって、労働者は規則・規定を守る時間のゆとりもないまでに追いこまれていくのが、現場の実態である。

新聞・テレビなどでも、毎日人殺し、交通事故、石油タンクの火災などのため、数多くの人の生命がうばわれ、傷ついている事実が伝えられている。そんな中で、炭鉱で一人二人の命がうばわれても、新聞記事にもならず、またわれわれも災害統括に慢性化してしまふ、自分自身の問題として真剣に考えることが少なくなっている。

しかし冷静に周囲を見ると、いつ自分の命が消えるかもしれない不安要素が非常に多い。会社や係長がせめては、労働者の命はいくらあっても足りない。

保安問題については最大の注意と関心をもち、安全個所をなくし、重大災害に対してはみんなて抗議しよう。

右は、私たち労働者に対する重大な警鐘をうちならしているのではないかと。

「同じ災害を二度と繰り返さないように努力します」
と約束しながら、会社はどんな保安対策を講じているのだろうか。

宮浦鉦鉦長室事件控訴審

跡部メモも持ち出す

鉦側の確約を巧みに隠ぺい

第2回公判

二月二十六日福岡高等裁判所で、この日証人宣誓として提出された宮浦鉦長室事件控訴審の第2回公判開廷。

この日は、検察側申請証人の跡部(メモ)が、どんな方法で、またこの日証人宣誓(宮浦鉦人事動務)が立どんな過程で作られたかを、中々交渉の席で、約束していたもの、江上正弘さんと井上陸美さんに心証を言を行った。(同メモが、

ところがこんなと提出された跡部メモは、交渉の際、宮浦指導部側が発言だけに神経をこらし、かんじんの鉦側が約束した点について、きわめてあいまいなものとなっていて、真実をたくみに隠ぺいしており、きわめて公正を欠くものとなっている。

当然ながら、弁護人(吉田雄策弁護士。北九州市公川総合法律事務所所属)の反対尋問が行われ、同メモの記述の不明確さ、立場が生んだ不正さが鋭く追及された。

次回は五月七日午後一時から、その際改めて池田次長の証言が行われる。

主席積み残され

三川鉦、すし詰め人車

三川鉦、すし詰め人車が問題となつて、西材料運搬関係の昇坑時全員を会談させ、一係員の口からこのように明かされたもの。

二月二十八日、みななはあきれるやら、腹を立つてやら。「常一審、一番人車の坑底に積み残され、混みよは、東京駅のラッシュなぬことと起きる。うっかりすれば、どんなことになるか」と抗議の音が強い。

その日N主席

職場の臭気を実感

もつと家計の具体例など

▼次は「つどい」宮浦指導部坑外分會が、こつこつと発行しつづけてきた本紙も、一月十九日発行で早や三十三号。

ガリ版の文字から察して、編集部が交代した模様。だが、本紙が誕生の初めから特徴として、もつと家計の具体例など、まきつづけていて、職場の臭気を発散させている。

▼普通の用紙の両面をつかって、組み立てている。

見出しを通して内容をのぞくと表のトップ「われわれの労働条件と人なみの生活」

つづいて「ごらんこの坑外」

「七五春闘、地方選挙闘争を勝利しよう」「梅だより」

裏が「浴場を完備せよ」「組夫も直轄工なら」「娘……」「ボール遊び」(これは、柳本ミカヨと筆名入り)「分會日誌」

ほかの記事はともかく「ボール遊び」は家庭の子どもの作品。



三川鉦とにらみ合った形で、三川指導部はある。ただいまは、地方選挙近しの感を濃くしている。

新聞の読者になることだろう。

▼もちろん、シロウトまる出しのこの新聞。難点を拾えば、けつして少くない。

たとえば、表のトップ記事の「節」――「石炭資本はわれわれの要求に対して受け入れることなく今日におよんでいる。……」(石炭炭見直しという気運が生れている現在、私たちは人間として人なみの生活をするために、急を要する情勢にある)というより、苦しい家計の実際をさつづける方が大切なこと、なかな。

どうぞ闘争資金に私たちががんばります

中津 園 憲一

拝啓 私たちもがんばること

二月も中をひれき申し上げて失礼いたしました。

多額のカンパに、心から感謝致します。

大分県中津市諸町一丁目、中津市職員労働組合の青年部長、園憲一さん、同婦人部長、福田允美さんの連署で寄せていただきました。中津市職労組の発展を心から祈りして、お礼にかえさせていただきます。

連帯の絆強める山田さん

もう先ごろの語ですが、CO患者の山田勝さん(荒尾市緑ヶ丘町)のもとへ、神奈川県南足柄市原一四一にお住まうの小泉美奈さんと、鹿児島市武町一〇〇にお住まうの上村美穂さんから、ご親切にリンゴとポンカンが送られてきました。

お二人は、三池にまなぶ婦人集會においで折山田さん宅にお泊りになった方々です。

山田さん宅はよろこび。さつと、COパンフレットなどをお二人からまたお手紙(紙面のついでにご紹介できれば)がくるなど、連帯の絆が強まっています。

ほんとうにありがとうございます。してみんなを連帯を強めてゆきましょう。

つどい、の表の紙面。ここに、職場のナマの姿がある。百の理屈より、一つの事実を。これを忘れずにゆこう。

今年も春闘は、不況下のインフレという事で政府・独占資本は、この不況を労働者を犠牲にして乗り切ろうとしておりま

このような厳しい情勢であります。組合員が統一と団結を強めるならば、必ず勝利すると確信致しております。

責組合も、さらには今後発展強化される事を願います。